福岡市消防局
Fukuoka Fire Prevention Bureau

Press Release

平成 27 年 7 月 21 日

福岡市政記者　各位

平成27年上半期の消防統計について

～統計を踏まえた安全･安心情報の提供～

平成 27 年上半期の統計資料を作成いたしましたので，広く市民の皆様へお知らせいただきますようお願いいたします。

なお，各統計値につきましては速報値となっております。

アジアのリーダー都市へ
FUKUOKA NEXT

～　問い合わせ先　～

○ 災害救急指令センター
【１１９番受付担当】三浦，三苫
電話：092-725-6585

○ 予防課　【火災担当】田中，平嶋
電話：092-725-6561

○ 救急課　【救急担当】冨永，守田
電話：092-725-6571

目次

１　１１９番受付について

(1) １１９番受付の主な特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・１ページ

(2) １１９番受付概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２ページ

２　火災について

(1) 火災の主な特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３ページ

(2) 火災概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４ページ

３　救急について

(1) 救急の主な特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７ページ

(2) 救急概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８ページ

凡　例

統計表の符号の用い方は次のとおりです。

「０」　・・・　四捨五入の結果，単位に達しないもの
「－」　・・・　皆無または該当数のないもの
「△」　・・・　負数を表す

１１９番受付の主な特徴

１　１１９番受付は４８，５８５件で４２９件の増加

平成27年上半期の119番受付件数は48,585件で，前年（48,156件）より429件増加しています。

そのうち，間違いや通報訓練などを除いた，災害受付は37,431件で，前年より1,807件増加し，過去最高となっています。 この増加の主なものとしては，救急受付件数の前年比1,567件の増加などです。

なお，火災の受付件数は前年比55件減少しています。

また，1日あたりの平均受付件数は268件（前年266件）で，5分22秒に1件の割合でした。

２　１１９番電話別受付は携帯電話が増加

固定電話からの119番受付は23,782件で,前年（24,719件）より937件減少しました。

また，携帯電話からの119番受付は24,803件で，前年（23,437件）より1,366件増加しており，携帯電話からの受付割合は51.1％とやや増加しています。

３　救急隊員が到着するまでの間，応急手当を口頭で指導

通報内容から，通報者等に対して気道の確保や人工呼吸など症状に応じた応急手当の口頭指導を行い，救命率の向上に努めています。

口頭指導件数は，「心肺蘇生」が537件(87.5%)で最も多く，次いで「その他(気道の確保，体位管理等)」62件(10.1%)，「異物除去（のどに詰まった食片等の除去）」15件件(2.4%)の順となっています。

また，傷病者の生命に危険があると判断した場合は，救急車と同時に消防車等を出動（ＰＡ連携※）させ，救急隊の支援活動を行います。

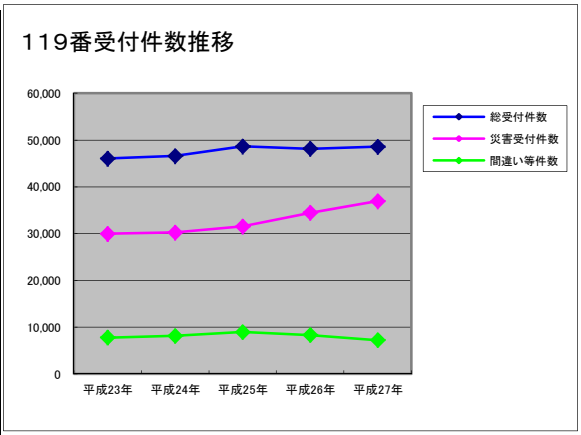
※　ＰＡ連携とは，心肺停止傷病者発生事案（疑いも含む。）など，救急隊のみでは救急活動が困難である事案等の救急事案に対して，消防隊が出動し，救急隊と連携して実施する活動をいいます。

１１９番受付概況

１　119番受付件数

区分		平成27年	平成26年	前年比
火　　災		516	571	△ 55
特別救急		5	2	3
救　　助		191	152	39
警　　戒		762	509	253
応　　援		1	1	0
救　　急		35, 956	34, 389	1, 567
自然災害		―	―	―
小　　計		37, 431	35, 624	1, 807
問い合わせ	災害等	95	99	△ 4
	病院照会	1, 596	1, 451	145
	その他	362	859	△ 497
通報訓練		1, 861	1, 791	70
間 違 い		2, 299	2, 984	△ 685
悪　　戯		118	247	△ 129
そ の 他（※）		4, 823	5, 101	△ 278
小　　計		11, 154	12, 532	△ 1, 378
合　　計		48, 585	48, 156	429

※「その他」の内容は，相談，応答なし及び苦情等です。



※災害受付件数は，各種災害区分の受付合計
※間違い等件数は，間違い，悪戯，その他の合計

※　1日あたりの119番受付件数

区分	平成27年	平成26年
1 日平均	268	266
時間割合	5分22秒に1件	5分24秒に1件

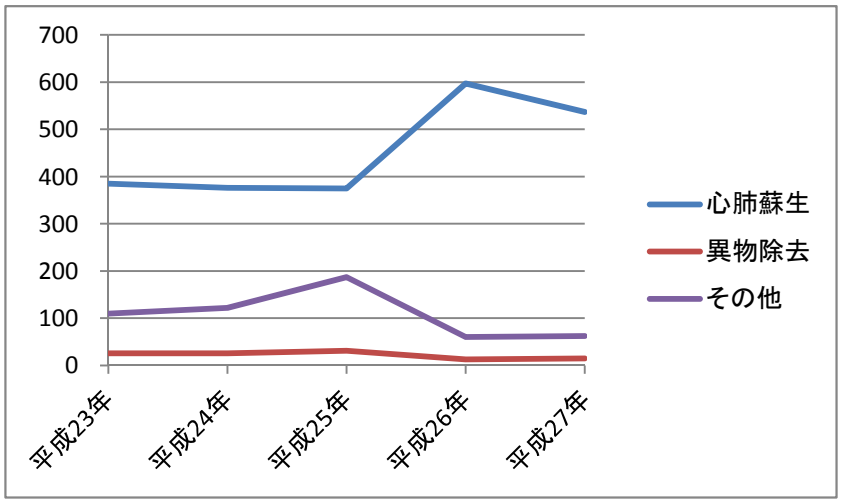
２　電話別119番受付件数

区分	平成27年		平成26年		前年比
	件数	割合	件数	割合	
固定（※）	23, 782	48. 9%	24, 719	51. 3%	-937
携帯	24, 803	51. 1%	23, 437	48. 7%	1, 366
合計	48, 585	100%	48, 156	100%	429

※　FAX，Eメールを含む。

３　口頭による応急手当指導状況

区分	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年	平成23年
心肺蘇生	537	597	375	376	385
異物除去	15	13	31	26	26
その他	62	60	187	122	110
合計	614	670	593	524	521



※「3 口頭による応急手当指導状況」にあっては集計方法を26年1月1日から変更。（救急報告書による集計から指令センター独自に集計することとした）

火災の主な特徴

１　火災件数は１６１件

○　上半期の火災件数は161件で，前年(148件)より13件増加しています。
○　過去５年間の平均件数（175件）と比較すると14件下回っています。
※　上半期件数161件は，過去５年間で２番目に少ない件数です。
※　このうち建物火災の件数は119件で，前年（102件）より17件増加しています。

２　焼損床面積及び損害額はともに減少

○　焼損床面積は1,703㎡で，前年(1,792㎡)より89㎡減少しています。
○　損害額は145,718千円で，前年(161,323千円)より15,605千円減少しています。
○　減少の要因としては，焼損床面積が100㎡を超えた火災が３件と前年（６件）より３件減少し，損害額が1,000万円を超えた火災が３件と前年（４件）より１件減少したことによるものと考えられます。

３　出火原因の１位は「放火」と「たばこ」が同数の３３件，３位は「こんろ」２６件

○　出火原因別の上位３位は，「放火(疑い含む。)」と「たばこ」が33件（20.5%）と同数で１位，３位が「こんろ」26件（16.1%）の順となっています。
「たばこ」が１位となったのは，昭和46年以来44年ぶりで，前年（17件）より16件増加しています。

たばこ火災は，「消したつもりの吸殻をごみ箱に捨てたため，残っていた火種が紙屑に燃え移った。」等の不注意から発生しています。灰皿に水を張るなどして，喫煙後は火を完全に消しましょう。
また，寝たばこは非常に危険です。絶対にやめましょう。

４　死者は４人で２人増加，負傷者は４１人で４人増加

○　火災による死者は４人で，前年（２人）より２人増加しています。
※　このうち高齢者（65歳以上）の死者は２人で，前年（１人）より１人増加しています。
※　死亡原因は，逃げ遅れ２人，不明・調査中２人となっています。
○　火災による負傷者は41人で，前年37人より４人増加しています。
※　このうち高齢者（65歳以上）の負傷者は８人で，前年（12人）より４人減少しています。
※　住宅火災における負傷者数は20人で，前年（30人）より10人減少しています。

負傷者のうち25人（61%）は避難中及び初期消火中に発生しています。
火災が発生したら，あわてずに避難及び初期消火を実施することが大切です。

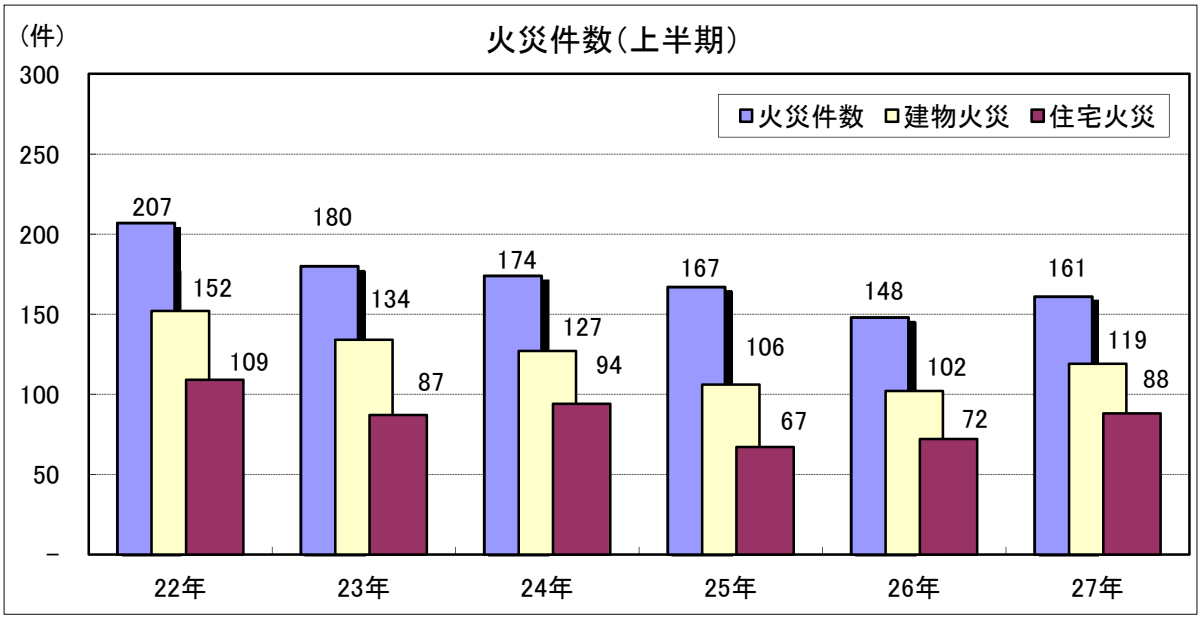
５　住宅用火災警報器の奏功事例は２５件（火災３件，非火災２２件）

○　住宅用火災警報器（以下「住警器」という。）の奏功事例は，上半期過去最高の25件の事例が報告されています。
※　奏功事例・・・寝たばこにより出火し，家人は就寝中であったが，住警器の音に気付いた隣人が119通報して被害を最小限に防いだ。家人もすぐに避難し無事であった。

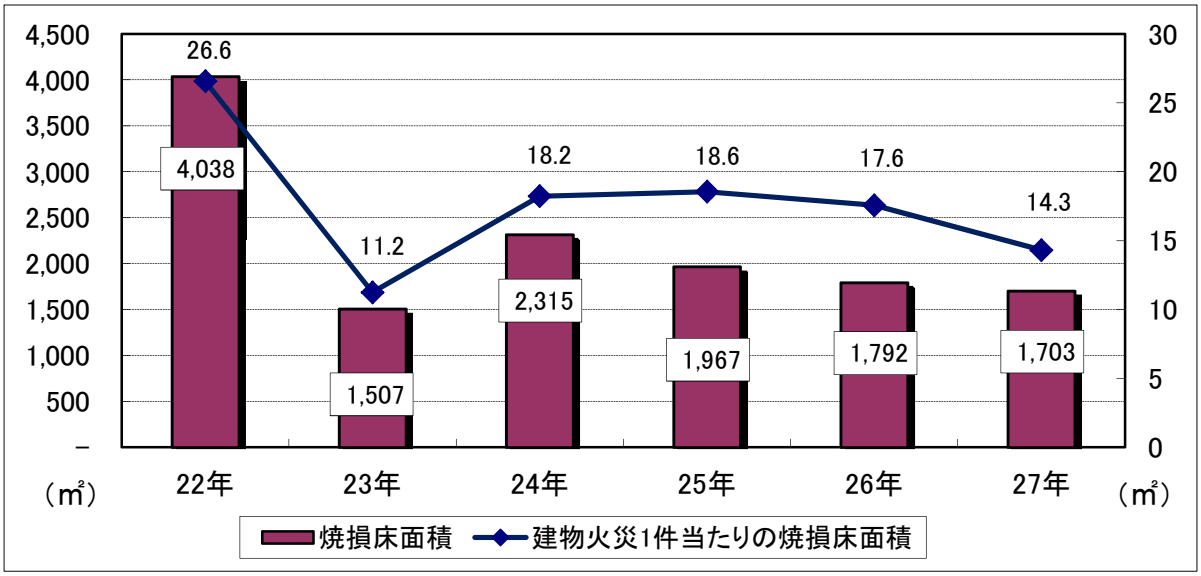
住警器は，大切な命や財産を守り，被害の軽減に大きく寄与する機器であることから，必ず設置してください（設置効果については６ページ参照）。また，すでに設置の方は，住警器が正常に作動するか点検を実施してください。点検方法は，テストボタンを押すものやひもを引くものなど機種によって違いますが，個人で実施することができます。詳しくは，取扱説明書等でご確認ください。

火災概況

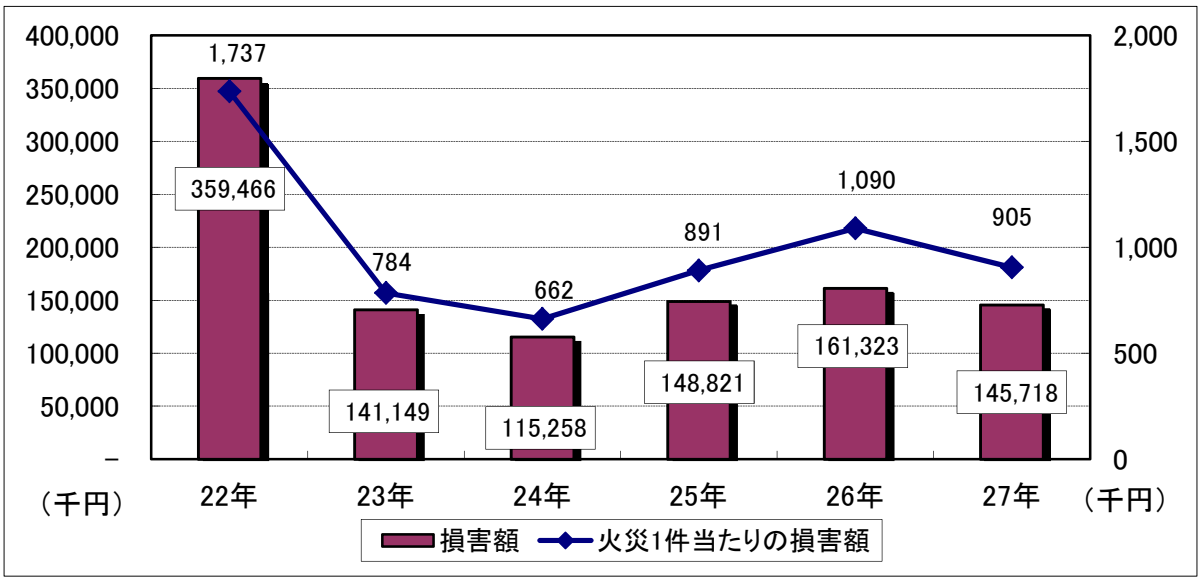
1　火災件数の推移



2　焼損床面積の推移



3　損害額の推移



4 火災概況

区分		前年との比較			上半期平均（過去5年間）
		平成27年上半期	平成26年上半期	増減	
火災件数		161	148	13	175
	爆発火災	－	－	－	1
火災種別件数	建物火災	119	102	17	124
	住宅火災	88	72	16	86
	林野火災	8	5	3	3
	車両火災	14	11	3	15
	船舶火災	－	1	△1	1
	航空機火災	－	－	－	－
	その他の火災	20	29	△9	32
焼損棟数		128	131	△3	153
焼損程度別	全焼	5	14	△9	15
	半焼	4	5	△1	6
	部分焼	47	43	4	45
	ぼや	72	69	3	86
焼損床面積（㎡）		1,703	1,792	△89	2,324
林野焼損面積(a)		16	3	13	11
損害額（千円）		145,718	161,323	△15,605	185,203
り災世帯（世帯）		127	128	△1	124
り災人員（人）		282	245	37	261
死者（人）		4	2	2	5
	高齢者死者(65歳以上)	2	1	1	3
負傷者（人）		41	37	4	33
出火原因別件数	放火	33	34	△1	43
	たばこ	33	17	16	21
	こんろ	26	21	5	33
	油鍋	12	11	1	17
	ストーブ	7	10	△3	10
	配線器具	7	3	4	5

※　過去5年間の平均は平成22年～26年の数値で，小数点第１位を四捨五入したもの
※　平成27年中の火災は，調査中の事案を含むため，各数値については概数

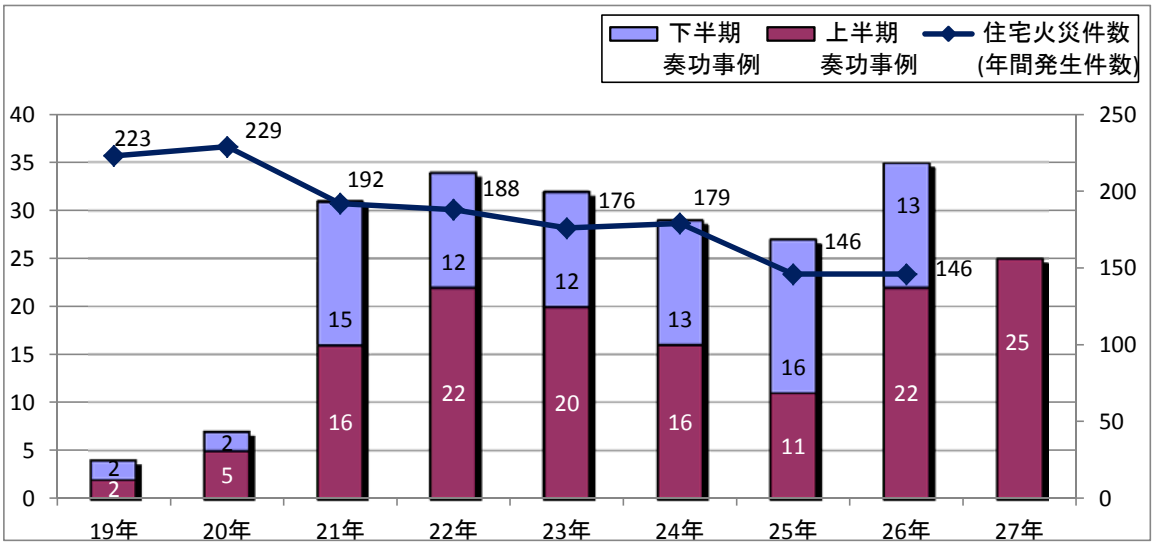
５　住宅用火災警報器の奏功事例及び設置効果

（1）　奏功事例件数と住宅火災件数の推移

平成27年上半期の奏功事例は25件（火災３件，非火災22件）あり，その内就寝中の奏功が９件ありました。

平成18年６月に住警器の設置が義務化されて以降，奏功事例が年々増加しています。

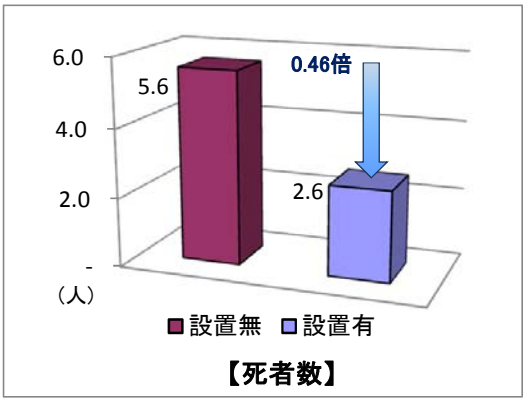
また，奏功事例の増加に反比例して，住宅火災は減少しています。

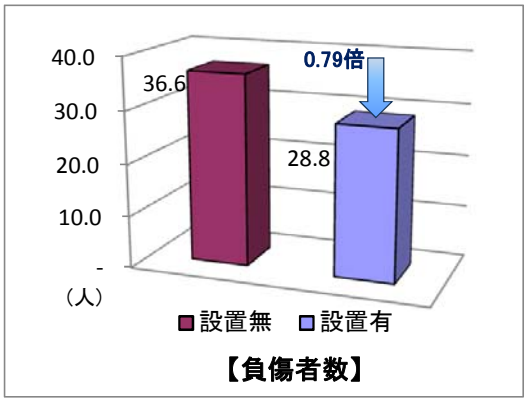


（2）　住警器の設置効果

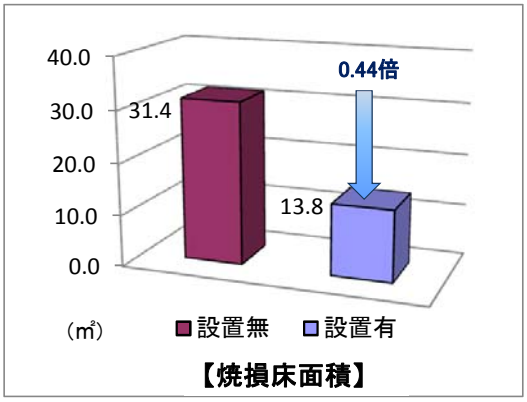
平成22年から平成26年の５年間に発生した住宅火災423件（注１）について，住警器の効果を分析すると，住警器を設置していた場合は，設置していない場合に比べ，死傷者数，焼損床面積及び損害額が減少しています。

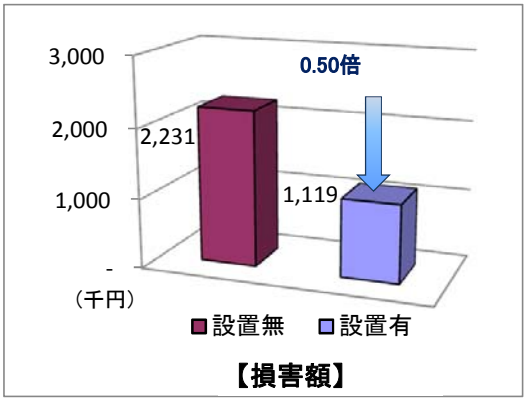
①　住宅火災100件当たりの死傷者数





②　住宅火災１件当たりの焼損床面積・損害額





（注１）　自動火災報知設備を設置した住宅及び放火自殺による住宅火災を除く。

救急の主な特徴

１　出動件数、搬送人員ともに過去最高

○　平成 27 年上半期の救急出動件数は，35,820 件で，前年（34,206 件）に比べ，1,614 件増加（4.7%増）し，また，搬送人員は，31,734 人で，前年（30,177 人）に比べ，1,557 人増加（5.2%増）しています。

※　平成 26 年中の出動件数の増加率（3.9%増）を 0.8 ポイント上回っています。

※　出動件数及び搬送人員ともに救急業務を開始した昭和 25 年以降，最高の件数です。

○　１日あたりの平均出動件数は，198.0 件で 7 分 16 秒に 1 回の割合で出動し，年間利用率に換算すると市民約 21 人に 1 人が利用したことになります。

※　市内では，28 台の救急自動車が上記救急要請に対応しています。

○　月毎の出動件数を見ると，3 月以外は増加しており，特に 1 月の増加が顕著であり，急病の増加が影響しています。

【救急出動件数】

	1月	2 月	3月	4月	5月	6月	合計
平成 27 年	6,926	5,597	5,978	5,655	6,040	5,624	35,820
平成 26 年	6,043	5,328	6,004	5,474	5,929	5,428	34,206
差	883	269	△26	181	111	196	1,614

２　出動種別は，「急病」，「一般負傷」，「交通事故」の順

○　救急車が要請された原因別による出動件数は，「急病」が 22,983 件（全体の 64.2%／1,405 件増加），「一般負傷」5,102 件（全体の 14.2%／227 件増加），「交通事故」2,964 件（全体の 8.3%／30 件増加），「転院搬送」2,807 件（全体の 7.8%／27 件減少）の順となっております。

※　「急病」とは，急発病や症状悪化等の疾病によるものです。

※　「一般負傷」とは，転倒や転落等により受傷したもので，他の種別に分類できない不慮の事故です。

３　６５才以上の搬送は，人員・割合ともに増加

○ 年齢別で見てみると，65 歳以上の搬送者数が 16,178 人で全体の 51.0%を占めており，昨年と比較すると 1,353 人増加（＋1.9 ポイント）し，年々増加しています。

○原因別で見ると，急病（11,054 人，昨年比 1,060 人増），一般負傷（2,934 人，昨年比 179 人増）が増加しています。

※　急病では，呼吸器系，脳疾患などの疾病，一般負傷では転倒による負傷などの搬送が増加しています。

救急概況

1　出動状況

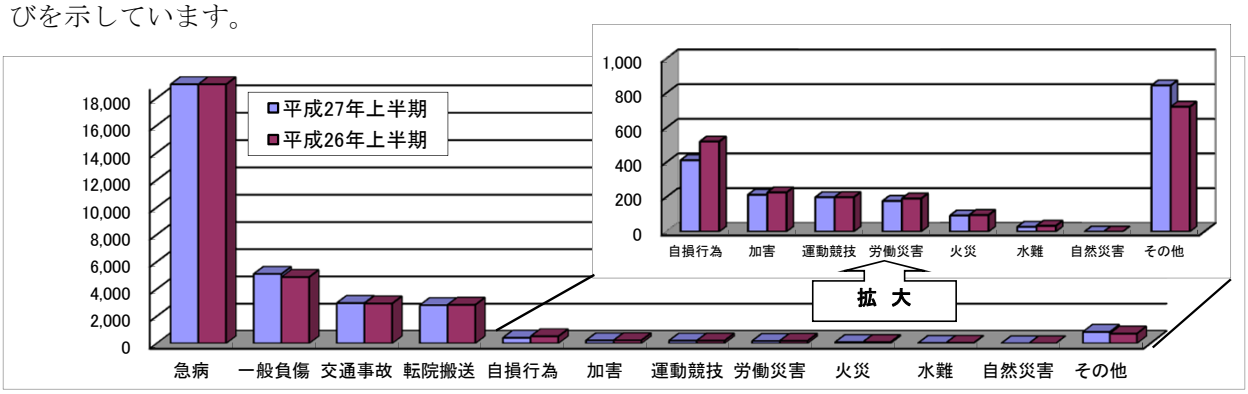
平成27年上半期の出動件数は35,820件，搬送人員は31,734人でした。
これは，1日に平均198.0件，7分16秒に1件の割合で出動し，市民の約21人に1人が利用していることになります。
1日の最高出動件数は290件（1月5日）で，最低出動件数は150件（4月22日）でした。

区　分	救急出動件数(件)	救急搬送人員(人)	1日あたりの出動件数	出動頻度	救急車利用率(人)
平成27年上半期	35,820	31,734	198.0	7分16秒に1件出動	市民約21人に1人
平成26年上半期	34,206	30,177	189.0	7分37秒に1件出動	市民約22人に1人
増　減	1,614	1,557	9.0	－	－
増加率(%)	4.7%	5.2%	4.8%	－	－

※　救急車利用率については，各年の1月1日現在の推計人口を出動件数で除して算出(年利用率に換算)

2　事故種別出動件数

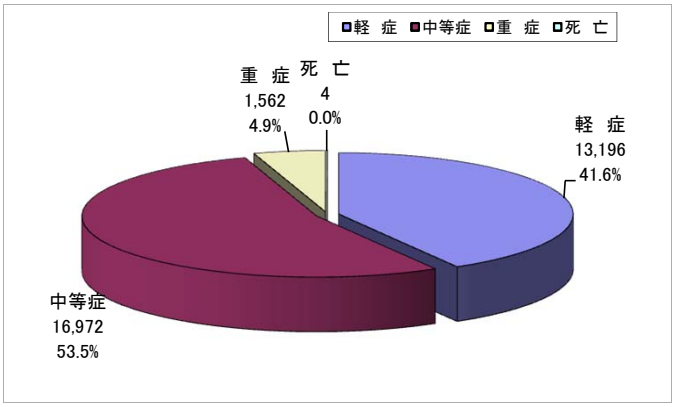
救急隊が出動した35,820件を事故種別に分けると「急病」が全体の約64%を占めており，以下「一般負傷」，「交通事故」の順となっています。前年との比較では「急病」や「一般負傷」の件数が高い伸びを示しています。



区分	(A)平成27年上半期(件)	出動件数に占める割合	(B)平成26年上半期(件)	増減(件)(A-B)	増減率
急病	22,983	64.2%	21,578	1,405	6.5%
一般負傷	5,102	14.2%	4,875	227	4.7%
交通事故	2,964	8.3%	2,934	30	1.0%
転院搬送	2,807	7.8%	2,834	△ 27	△1.0%
自損行為	412	1.2%	519	△ 107	△20.6%
加害	213	0.6%	226	△ 13	△5.8%
運動競技	198	0.6%	199	△ 1	△0.5%
労働災害	177	0.5%	191	△ 14	△7.3%
火災	93	0.3%	96	△ 3	△3.1%
水難	28	0.1%	34	△ 6	△17.6%
自然災害	－	－	－	－	－
その他	843	2.4%	720	123	17.1%
合計	35,820	100%	34,206	1,614	4.7%

3 傷病程度別搬送人員

医療機関に搬送された31,734人を程度別にみると，「中等症」が最も多く，次いで「軽症」，以下「重症」，「死亡」の順となっています。

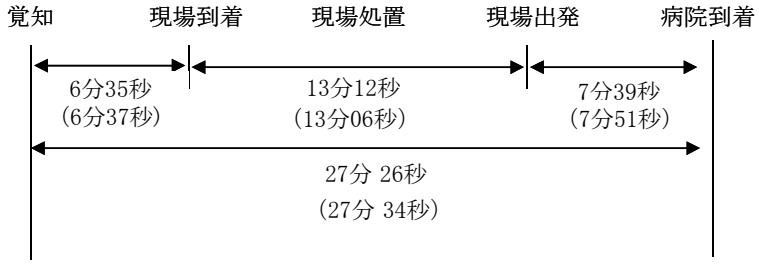


死　亡 ‥	初診時において，死亡が確認されたもの。
重　症 ‥	傷病の程度が，3週間以上の入院加療を必要とするもの。
中等症 ‥	傷病の程度が入院を必要とするもので，重症に至らないもの。
軽　症 ‥	傷病の程度が入院を必要としないもの。

区　分	平成27年上半期		平成26年上半期		増減(人)	増減率
	人　員(人)	割合	人　員(人)	割合		
軽　症	13,196	41.6%	11,948	39.6%	1,248	10.4%
中等症	16,972	53.5%	16,569	54.9%	403	2.4%
重　症	1,562	4.9%	1,649	5.5%	△ 87	△5.3%
死　亡	4	0	11	0	△ 7	△63.6%
合　計	31,734	100.0%	30,177	100.0%	1,557	5.2%

4 救急活動所要時間

119通報を覚知してから「現場到着」，「現場処置」，「病院到着」までの平均所要時間は，次のとおりとなっています。

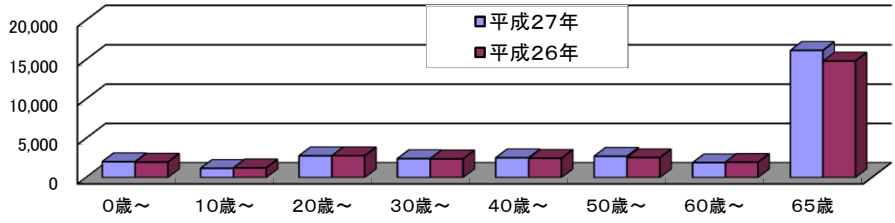


【参考】
平成26年中の救急事故覚知(119番通報等)から 病院到着までの時間は，27分02秒で政令市の中で一番早くなっています。
(平成25年中全国平均:39分18秒)

※ ( )については，平成26年上半期の救急活動平均所要時間

5 年齢区分別搬送人員

年齢区分別の搬送人員では，「65歳以上」が全体の51.0%を占め，以下「20歳代」，「50歳代」の順となっています。



区　分		0歳～9歳	10歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳以上	合計
平成27年	人員	2,031	1,179	2,778	2,413	2,530	2,727	1,898	16,178	31,734
	割合(%)	6.4%	3.7%	8.7%	7.6%	8.0%	8.6%	6.0%	51.0%	100.0%
平成26年	人員	1,974	1,245	2,784	2,390	2,461	2,539	1,959	14,825	30,177
	割合(%)	6.5%	4.1%	9.2%	7.9%	8.2%	8.4%	6.5%	49.1%	100.0%